

島のひろば

第696号

「島のひろば」編集委員会電話 04992-2-8256

くらしの相談は共産党町議団へ

小池2-9318 山田2-3670

酒井090-4545-0032

自公連立崩壊

公明離脱は自公政治全体の大破綻

自民党政治の末期的行き詰まりの象徴

高市新総裁誕生から1週間も経たないうちに公明党連立離脱、自公連立政権崩壊という事態になりました。

高市新体制は、裏金事件と経済無策への国民的大批判に向き合わず無反省という根本的もろさをはらむものでした。

そのもろさが早くも露呈したと言えます。今回の直接の要因は、赤旗日曜版のスクープから始まった裏金事件でした。

公明党は高市新体制に事件の全容解明や企業・団体献金の「規制」を求めたことですが、致にいたらず

自公連立政権の「あしあと」

1999 小渕内閣のもとで連立開始

2003 自公でイラク派兵法強行

2004 公明党坂口厚労相の下で物価・賃金に連動させ年金削減の「マクロ経済スライド」導入

2006 安倍内閣の下で教育基本法改悪

2008 後期高齢者医療制度、医療費窓口負担が1割から2割へ

2012 衆院選で自公大勝、第2次安倍内閣発足

2013 市民監視と情報統制強化のため「特定秘密法」を成立させる

2014 消費税5%から8%へ引き上げ

2014 集団的自衛権行使容認を閣議決定

2015 自公で「生涯派遣」の労働者派遣法改悪強行

2015 自公が安保法制＝戦争法強行

2018 長時間勤務等の元「働き方改革一括法」成立

2019 消費税8%から10%へ引き上げ

2022 敵基地攻撃能力保有などを明記した安保3文書を岸田内閣が閣議決定し、自公与党協議で承認

2024 改定地方自治法で空港・港湾の軍事利用と地方自治体の軍事動員

2025 学問の軍事動員を狙い学問の自由を侵害する学術会議解体法成立

総裁選の中でも「挙党体制」が強調され、高市新総裁のもとで副幹事長には萩生田光一氏が起用されたように自民党にとっては過去の出来事になっていくのです。事件で公認を得られなかった議員も復権し自民党は元に戻ったと国民は評価しています。まさに自民党の末期的行き詰まり現象です。そこで、自民党の裏金議員を参院選で推薦した公明党ももはや放置できないとなったのでしよう。

裏金議員を多く抱える旧安倍派を背に「挙党体制」の名の下に、萩生田氏を筆頭に次々と復権を狙います。

公明党が不信感を抱くのも当然です。今後政治情勢は一層流動化が予想されますが、中でも自民党がさまざまに補完

懲りない自民党

「安倍氏の遺志を継ぐ」？

そもそも高市総裁は安倍側近の有力メンバー。「安倍晋三路線の継承者」「安倍氏の遺志を継ぐ」と公言してきた高市氏です。

派閥復活？長老支配の自民党

今回の高市総裁誕生の最大の立役者は麻生太郎氏。唯一残る派閥を率い、長老としてその力を振るいました。この路線が自民党の懲りない

打開の方向は

自民党政治にさよなら

今後政治情勢は一層流動化が予想されますが、中でも自民党がさまざまに補完勢力を取り込もうとするでしょう。しかし、どんな枠組みが成立しても、失敗した経済政策にしがみつき、消費税減税に背を向け、社会保障切り捨て、「日米同盟絶対」の自民党政治の延命に加担すれば国民の厳しい批判は免れません。

打開の方向は自民党政治を終わらせることです。そのため国民的共同を広げましょう。



体質としてこびりついている以上国民は認めません。

九月議会続報

山田議員は「移動投票所設置」と「少子化対策」を求める

選挙のたびに何とかしてほしいの声を聞く高齢者の選挙権（投票権）の保障について質しました。

山田 60代70代の投票率は他より高いのに80代になるとさがってしまいます。要求は切実なのに投票に行けなくなってしまうから。そこで、期日前投票期間中に投票所そのものを移動させ場合によればオンラインで自宅まで来てもらうという試みを大島でも考えてはどうか。

総務課長 選挙権は重要な国民の権利であり、以前、移動投票所の設置を検討したこともあります。オンライン型のものや、投票所への送

迎等の支援策もあるので今後検討していきたいと思っています。

二つ目は「少子化対策」でした。大島だけの問題ではないのですが、故郷大島の現状を憂えた質問でした。

山田 子どもを産むかどうかは個人の決めるものだが、政府や自治体を取り組む理由は、第一に人口構成がいびつになり高齢化率が上がってしまふ問題が生じること、第二は子どもを産み育てるのは人間の根源的（本能的）要求であるが、それが何らかの社会的な要因で満たされないとしたら、国や自治体は放置してはならないということ。

今回は福祉政策と教育政策の面で考えたい。まず、女性の妊娠から出産までのこととして、出産前の検診や、不妊治療も考えるべき。これらを島外で受けるとなると島外医療機関通院補助とは別に制度化する必要がある。島で妊娠・出産するのは昔も今も不安で厳しい条件の下で行われているというところを考慮すべき。出産後のことで女性が安心して働くことができる福祉的條件の整備や子どもの発達段階に見合った検診制度も必要。

さらに学校教育の段階では、何よりも教育費の保護者負担を軽減すること。昨年度の給食費無償化は大歓迎。高等教育を受けるための奨学金（給付型）を考えてほしい。そして各担当課の計画も含め「高齢者ガイドブック」のように冊子化して妊娠時に両親に手渡し、出産、子育て、町も全力で応援しますから頑張らしましょうというメッセージを贈れたらいいと思う。

大島文学・紀行散策
拾遺編
耕平逍遙
童話・書簡・日記を読む

二五

555

時得孝良

大島での満六年間の療養生活、生まれ故郷諏訪の厳しい寒さと違った温暖な大島、自然と同化している島娘との出会い、そして自身の親鸞の教えに帰依する信仰心などを背景にして誕生したのが歌集「青杉」であった。歌は二五八首収められていて、すべて大島で詠まれたものである。

歌集冒頭歌は
○桜葉の散る日となればさ
わやかに海の向山見えわたるなり

で、この歌を刻んだ歌碑が、元町弘法浜の小高い丘の上に建立されている。

この歌について、歌人の山本成雄は、次のように評価している。ここに引用する。

《明晰な視覚を主とした作品

編を閉じることにしたい。

○おしなべて光る若葉となり

にけり島山かげに居なく鶯

○渚原かぎろい高し見はるか

す海のおもての春日かがよう

立つ

○春の夜の月はすがしく照りにけり木の芽開きてやや影に

中途半端の気もしないではないが、以上で「耕平逍遙」